

全国へ 世界へ届ける！

2022年の新茶は、冬間に十分な休眠がなされたことや、昼夜間に適度な温度差があったことから、色とりや品質がよいものとなりました。特徴としては、色あざやかで旨味^{うまみ}が凝縮された、例年になく旬を感じる味わいのお茶となっております。新茶初取引会での平均単価は前年対比157%で、今後に期待が持てる価格となりました。

また、4月11日の雨以降は夏を思わせる陽気が続き、お茶の生育が急激に進んだことから日増しに生産量が増大しました。短期集中の摘採時期となりましたが、お茶農家の皆さんは自然の偉大さを感じながら寝る間も惜しんで新茶を生産されたことと思います。

今回の特集は、「今年の新茶」「全国や世界へ知覧茶を届ける取り組み」について紹介します。

「史上最速」で始まった昨年の新茶シーズン。 今年の新茶シーズンはどうだったのかを振り返ります。

今年は2月下旬から気温が低くなり、この時期油断してはならない霜害対策を徹底しながら、茶の木が休眠から覚めるのを待ちました。

気温が低くなっている期間は、じっくりと時間をかけ新芽に養分をためており、これが旨味や上質な香りに繋がります。その後は天候も安定し、おいしい知覧茶ができる条件である昼夜の寒暖差もあり、被覆時の色のりは良好でした。新芽も均一の綺麗な生育をして、素晴らしい新茶シーズンを迎えることができました。



霜害対策の茶畑



新茶まつりで奉納する茶葉を手摘みする様子

新茶シーズンスタート目前の3月末には、額娃地域で新茶まつり、知覧地域では新茶祈願祭を少人数にて開催しました。

今年の新茶をたくさんの人に届けたいという、生産に携わっている全員の熱い気持ちが込められています。お茶本来の持つ旨味や甘味を感じられる新茶を、ぜひともお楽しみください！

南九州市茶業振興会 西垂水 会長に 「今年の新茶」について伺いました。



今年は昨年とはまた違った「短期集中」のシーズンでした。

通常はお茶摘みを早く開始する早生品種から、中期の中生品種、後期の晩生品種と順に茶摘みの時期を迎えます。しかし、今年は『ゆたかみどり』や『さえみどり』などの早生品種が生育の足踏みをしている間に、中生品種や晩生品種が順調に伸びてきて、結果お茶を摘む時期が集中したことにより苦労しました。

集中した新茶シーズンではありましたが、茶摘み期間中は気温が急激にあがることもなく、朝晩が涼しく比較的好天が続いたので、新芽が固くなる「硬化」が進まなかったことで、品質の良い新茶をつくることができました。

「一雨ごとにお茶は変わる」と言われるほど、新茶の茶摘み時期を見極めることは重要です。

昨年は「史上最速」の新茶シーズンでしたが、茶摘みの時期は曇天が続き、茶摘み一週間前に被せを行いました。特に「色のり（きれいな新茶の色になること）」に気を使いました。

そのため、今年は通常の期間よりも一日、二日と被覆期間を延ばし新茶に臨みました。

その分、本年は天候に恵まれた新茶シーズンだったのではないのでしょうか。



「全国へ」

世界へ知覧茶を届ける」

2020年から長期化しているコロナ禍での生活。思うように対面での知覧茶PRができないというのも事実です。しかし、こんな時だからこそできることもあります。

ここでは、南九州市茶業振興会や南九州市茶流通対策協議会の取り組みを2つ紹介します。

一つ目が、SNSを活用した、「オンラインイベント」の開催です。

令和3年度は3回開催し、令和4年度も3回開催予定です。5月2日に開催したイベントでは、全国の40を超える都道府県から1000名以上が参加をしています。の中には、日本の文化やお茶の文化に興味を持つ日本在住の海外出身者や海外在住の方もいます。



また、知覧茶と全国の方々を結び、茶畑風景や情報を発信するだけでなく、「一煎パック」と呼ばれる1名〜2名ほどで飲み切る程度の知覧茶少量パックを作成しました。遠い距離にしながら知覧茶の味や情報を身近に感じていただく機会を創出することにより、全国から多数の反応をいただくようになりました。



知覧茶の一煎パック

二つ目が、知覧茶生産者の思いを届けるプロジェクト「TEALABO CHANNEL」(ティラボチャネル)です。

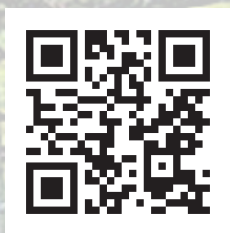
2020年から始まった、若い世代を中心としたお茶に関わるTEA

LABO (ティラボ)。2021年からは、鹿児島島のブランド茶である「知覧茶」の作り手を直接訪ねて、その秘めたる思いを若者に届ける「TEALABO CHANNEL」というプロジェクトを進めており、知覧茶生産者にまつわるオンライン記事を全国へ発信しています。

前述のオンラインイベント開催を重ねていくと同時に、知覧茶に興味を持つようになった方々から、産地やつくり方、そして作り手といった背景を知りたいというお声をいただくようになりました。

お茶の消費に関し、直近の市況に加え「コロナ」というワードでネガティブな印象をもつ場面があると思いますが、各々の「視野」を広げ、必要としている人との「接点」を創り出すことで、お茶業界は一段上のステージに進むのではないかと感じます。

知覧茶の挑戦は始まったばかりです。



TEALABO CHANNEL
QRコード